

5年	挑戦してみよう
	結晶づくり 発展

ミョウバンの結晶づくりを通して、結晶そのものの美しさに触れるとともに、水溶液に対する興味・関心を一層高め、中学校の学習につなげたいものです。



ミョウバンの結晶

1 準備

ミョウバン（生ミョウバンという透明で小さな結晶状のものを使いたい）、蒸留水、アルコールランプ、エナメル線（0.8mm程度）、ピーカー（100ml）、割り箸、発砲スチロールなどの箱、温度計、ラップフィルム、三脚、金網

2 大きな結晶づくりに挑戦

ミョウバンの粒（結晶）の中で、なるべく大きくきれいな形のものを選ぶ。

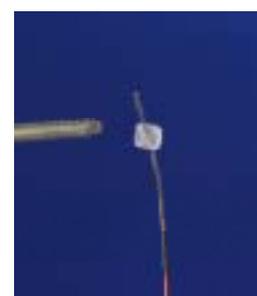


3 ~ 5 mmの大きさ

エナメル線を加熱する。



エナメル線を固定して上から結晶をさしてから先を少し曲げる。



蒸留水100mlに20gのミョウバンを加え加熱して溶かし、40ぐらいに冷えたら、結晶をつけたエナメル線を割り箸に巻き付けピーカーにつす。



ピーカーをラッピングし、40度の湯が入った発砲スチロールの箱に入れ、2日以上置いておく。

（ゆっくり冷やさないといたるところに結晶ができてしまう。）



箱は動かさないようにする

3 別法

の段階について

- ・ 6 ~ 8 g のミョウバンを30mlの蒸留水に入れ、加熱して完全に溶かす。きれいな容器に入れて放置すると、5 mm程度の結晶ができる。これをピンセットで取り出しよく乾かし種結晶として利用する方法もある。

~ の段階について

- ・ エナメル線を用いるかわりに、 の液に糸だけをたらして1日置いておくと糸に結晶がいくつかできる。大きくて形が良いものを1つだけ残し、再びピーカーの中にとらす。(ピーカーの底に結晶がたまっていたら、加熱して溶かして、40 くらいにまで冷ましてから結晶のついた糸をとらす。)

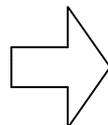
4 簡単な結晶づくり

モールを用いた結晶づくり

- ・ 50 程度の湯100mlにミョウバンを30 g 溶かし、この水溶液にモールをつるして室内に置いておく。ゆっくり冷やすように工夫すれば結晶はより大きく成長する。



モールでつくった星形



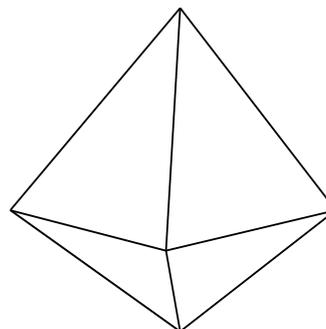
1日後、モールにできたミョウバンの結晶

ミョウバンに関する豆知識

染色剤や防水剤、消火剤、皮なめし剤、沈殿剤などの用途があり、古代ローマ時代から使われてきました。上質の井戸がない場合、質の悪い水にミョウバンを入れて不純物を沈殿させて飲用に使うこともありました。又、脇の制汗・防臭剤としても使用されていました。ミョウバンは、温度による溶解度の変化が大きく結晶づくりに適しています。

温度が高く濃いミョウバンの水溶液を冷やすと、溶けきれなくなったミョウバンが結晶として析出してきます。

ミョウバンの結晶は、立方体をした食塩の結晶と異なり、正8面体をしています。



ミョウバンの結晶の形